平成26年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

大竹小学校の取組

大竹市立大竹小学校

<学校概要>

平成27年1月21日現在

◆在籍児童数　677名
（通常の学級21学級，特別支援学級3学級，通級1教室）

◆学校が支援を要すると判断した
通常の学級の児童数33名（個別の指導計画を作成済）

◆平成24年度から2年間，特別支援教育の視点を生かし，「分かりやすい授業づくり」「過ごしやすい学級づくり」をめざして研究を進めた。

◆今年度も，特別支援教育の視点を基盤にして，考える場面へ全員が参加できる授業づくりに取り組んでいる。

<校内体制>

平成27年1月21日現在

◆週1回，生徒指導連絡会を実施
→全校で共有すべき児童の様子について交流

◆随時，ケース会議実施（これまでに9回実施）

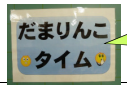
◆巡回相談8回実施済（H27，1月・2月実施予定）
→授業観察後，
授業改善のポイントや
個別の指導計画に沿った指導を受ける

1　学校全体の取組

◆特別支援教育の視点の共有化

①視覚支援
黒板周りの掲示物の整理等

②聴覚支援
簡潔な指示
声の強弱，トーンの工夫等



静寂の時間も
活用

③学習規律
「竹小ナビ」の作成等

④評価
個別に具体的な評価
児童同士の評価等

2　授業実践報告（概要）

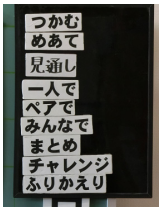
【授業概要】
◆算数科　第2学年
「たし算とひき算のひっ算（2）」
◆（百何）－（2位数）で，百の位から繰り下がりのある筆算の仕方を理解することができる。

【学級全体の状況】
◆ 繰り下がりのある引き算の仕方は概ね理解できているが，問題を解いているうちに計算に仕方を忘れ，計算間違いをする児童がいる。

【児童の実態】
○思いついたことをすぐに口に出してしまう。
○図を描くのが苦手で，学習内容の理解にも時間がかかる。
○自分の考えを書く際には時間がかかる。学習に集中することが難しく，作業などの取りかかりが遅くなる。

2　授業実践報告
（学級全体への支援）

①見通しをもたせる



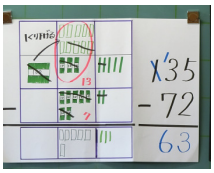
・学習の流れの提示

・授業展開のパターン化

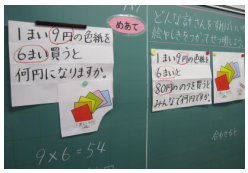
⇒　次に何をするのかが明確になり課題にスムーズに取り組める

2　授業実践報告
（学級全体への支援）

②既習事項の確認



既習事項の掲示



既習の問題をヒントに

⇒ 全員がスタートラインに立つ
学習パターンの習得

2　授業実践報告
（学級全体への支援）

③視覚支援

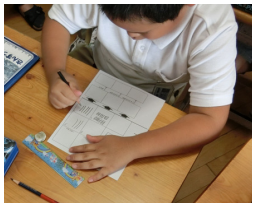
仕切り線

・具体物の操作
・仕切り線の活用
・毎回同じ色で

⇒ 本時の授業では全員評価問題正解！

2　授業実践報告
（学級全体への支援）

④ワークシートの工夫



・つまずきを軽減するためのワークシートを準備
・自分が書いたものをヒントに！

⇒ 目標達成のための手立て
自分の考えを書くことに抵抗が少なくなる

2　授業実践報告
（個への支援）

①個に応じた声掛けのタイミング

個の児童の実態に合わせて
- 考えを書き終った後
- 早めの机間指導
- 学習前の準備確認　など

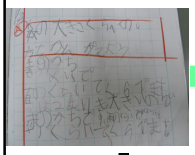
⇒ 事前の実態把握，その時の状況把握が重要

2　授業実践報告
（個への支援）

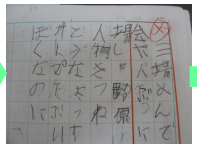
②マスの大きさ

大きなマスで練習

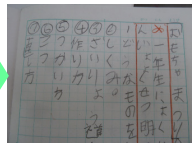
児童の変容



6月



10月



12月

3　成果と課題

【成果】

○特別支援教育の視点で支援を整理したことで，児童の実態把握，個への支援を具体的に行えるようになった。

○「できた」「分かった」と達成感を得ることで，自信をもち学習意欲が上がった。

○お互いの苦手なことを理解し合い，一人一人のがんばりを認め合える学級集団になってきた。

【課題】

▲学級全体を支援しすぎると，一部の児童には不要な支援まで行ってしまうことがある。今後，適切な支援の在り方を考えていきたい。